

国際学会報告

ICCC13 参加報告

The 13th International Conference on Culture Collections (ICCC13) が2013年9月23日から9月27日にかけて中国北京・北京友誼賓館 (Beijing Friendship Hotel) にて開催された。ICCC は世界微生物株保存連盟 (World Federation for Culture Collections, WFCC) が主催する国際会議で、2004年につくばで第10回大会が開催されて以来3年ごとに開催されている。因みに2007年にはドイツ・ゴスラーで、2010年にはブラジル・フロリアノポリスで開催されている。今回の会議はWFCCと中国科学院微生物研究所 (Institute of Microbiology, Chinese Academy of Sciences, IMCAS), 中国微生物学会 (Chinese Society for Microbiology) が主催した。参加者は35カ国、約300名で、プレナリーレクチャー5題 (ビデオメッセージを含む)、口頭発表104題、ポスター発表98題という規模であった。尚、本会議に先駆けて9月22日には同ホテルにて The 10th Asian Consortium for the Conservation and Sustainable Use of Microbial Resources (ACM) とトレーニングコースが開催されている。

会議は9月23日9時から大会長である P. Desmeth 博士 (BCCM, WFCC 会長) と X. Dong 博士 (IMCAS 生物資源センター所長) のオープニングアドレスに始まり、続いて E. Stackebrandt (DSMZ), T. Boekhout (CBS), R. Gunsalus (UCLA), G.-P. Zhao (CAS) 各氏のプレナリーレクチャー、さらに生物多様性条約 (CBD) 事務総長である Braulio F. de Souza Dias 氏のビデオメッセージが放映された。本メッセージでは現在の CBD 及び名古屋議定書 (NP)* の進行状況を説明するとともにカルチャーコレクションとそのコミュニティによる CBD/NP への取り組みを歓迎していると述べていた。尚、本ビデオは Youtube でも閲覧可能なので関心のある方は是非ともご



総会にて講演する P. Desmeth 博士 (WFCC 会長)。右手は X. Dong 博士。

* 正式名称の日本語訳は「生物の多様性に関する条約の遺伝資源の取得の機会及びその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分に関する名古屋議定書」(外務省仮訳文より)

覧頂きたい (<http://www.youtube.com/watch?v=GeLYe7UUik>). 全体写真撮影の後、以降の会議は3つの会場においてカルチャーコレクション（生物資源センターを含む）運営に関わるセッションと研究開発のセッション、ポスターセッションがほぼ平行して行われた（28日午後には中国科学院微生物研究所のフリーツアーが組み込まれた）。

カルチャーコレクション運営関係ではコレクション間ネットワーク、ファンディング、データ・情報管理、CBD/NP、品質管理、能力開発など様々な議題があったが、中でも各ネットワークの紹介や活動報告に関しての議題が多かった。いまやCBD/NP等のように1つのコレクションでは対応できない問題が控えており、コレクション間ネットワークがますます重要になってきている。その一方で、規模の大きくないコレクションにとってはローカルネットワークの支援が重要であるという意見にも肯かされた。またMa所長（IMCAS）が率いるWorld Data Center for Microorganisms（WDCM）の活動がめざましいことも印象的であった。実際にWDCMの提供するツールがCBD/NPへの対応や各コレクションの活動のアピールに活用されてくれば、WFCCがより身近なものに感じられるようになるのではないだろうか。

研究開発に関するセッションでは、ゲノム解析やメタゲノムを始め各種微生物群の多様性、生態と機能、保存法などのテーマで口頭発表があった。一方、ポスター発表に関しては演者は事前にデータさえ送れば主催者側で展示してもらえ負担が軽減された。しかし討論時間のアナウンスがなく、最終日には多少の時間の余裕があったことも考えると、どこかで討論時間を設けてもらえれば良かったものと思う。

本会議の始まる前には、8月半ばになってもプログラムが確定せずはらはらした時もあったが、終わってみると会議全体は活発な議論が続き成功裡に終えることができたと思う。会場も時間編成もコンパクトながら、比較的リラックスして会議に臨めたのではないだろうか。会議をスムーズに運営するために準備をして頂いた中国科学院微生物研究所スタッフには心から感謝したい。

次回のICCC14は2016年にトルコにて開催する予定で、開催地は現時点では確定しないもののアンタリアが有力な候補地としてあがっている。尚、WFCC理事会では、D. Smith氏（CABI）、G. Verkleij氏（CBS）らが退任し、新たにM. Groenewald氏（CBS）、M. Amar氏（CCMM）、G. Prasad氏（MTCC）、K. Boundy-Millis氏（UCD-FST）が選出された。また鈴木健一朗氏（NBRC）が副会長に就任した。

（伊藤 隆，飯田敏也）